

◎議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（藤井 要君） 日程第13、議案第44号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（長嶋精一君） 議案第44号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についてでございます。

詳細は担当課長より申し上げます。

（企画観光課長 深澤準弥君 説明）

○議長（藤井 要君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○5番（深澤 守君） 当初のですね、この補正に関しまして、当初の売り上げの金額を減額していない訳ですね。普通、企業をアレするのにですね、例えば、何人入って、幾ら総額あるから人件費等こういう・・・、あの・・・、計算していくっていうことをやると思うんですけど、なぜ、今回、この、3億5千万を減額しなかったのでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） はい。今回のコロナの件でどれぐらいの減収になるかという見込みが、立たなかったのが1点です。今回、5月、6月と休業させていただいている中で、今後の見通しという中がはっきりとこれで収束という形で動き出す形ではないものですから、今の現状では、そのままの数字を、会計上はさせていただいております。ただ借り入れる際の、この間、全協でもちょっとお示した、資料の中では、一応、経費の部分と収入の部分については・・・、6割で数字を出させていただいて、その中での、キャッシュフローの動きというのを提示させていただいています。

○5番（深澤 守君） 町長、静岡銀行にいらっしゃったんですね・・・。民間企業が、お金を借りる時にはどういうふうにやるかっていうのは手続き上ご存じだと思います。民間企業が借りる時は、それこそ再建計画、収支計画等、すごくうるさく言われて、精査してくると思うんですけど・・・。これ、町長の考える今、松崎町のまつぎ荘の再建計画ですね。どのような方針をお持ちですか。もし、具体的なこういうふうにやっていきたいとか、ございましたら、御答弁お願いいたします。

○町長（長嶋精一君） 全協でしたか・・・、皆さんに説明した時には、予想資金繰り表と収支

状況、それから損益を提示したと思います。その中で、予想資金繰りが非常に重要であって、このままいくと7月に資金がショートするよと・・・そこで、1億円を投入さしていただくということを皆さんに説明させていただきました。今、企画観光の課長から話をしたとおりにですね、前年と比較して、60%の売り上げの推移で、いこうということで計画を立てております。その・・・、計画ですので、なかなか困難ではないかと思えますけれど・・・。ただし、宿泊産業でございますのでね。これはイコール予約産業です。従って、何月何日にはお客さんが50人、っていうのがわかる訳です。40人、30人とわかる。それに応じて、その、仕入れだとか、あるいは、従業員の配置というものをですね、しっかりと、立てて、収支がプラスになるような形で、必ずやってまいりたいと思います。先ほど、深澤議員から、緩い形は、もうダメだというふうに、忠告を受けています。私も全くそのとおりでと思います。その辺をシビアにですね、シフトを組んでやってもらいたいと思います。非常に難しいことではないかと思えますけれども、感染しないように、あるいは営業もやんなきゃならないと・・・。二律背反的なことをやっていく訳ですけどね、だけど、そこをやんなきゃいけないと、いうふうに思ってます。だから、厳しくも従業員が、あまり恐怖感を抱かないように、やっていきたいと思えます。また、これについてもですね、プレミアム・・・、新しく発行させていただくね、議員さんの承諾得て、ですね、専決でやらせてもらいたいと思うんだけども・・・。そういうのも、各住民に行き渡って、ですね。是非、まつぎき荘に泊まっていたら、ということも考えておりますので、何とか、乗り切っていきたいなというふうに思います、以上です。

○5番（深澤 守君） 町長、僕が聞いたかったのは、具体的な、今考える、まつぎき荘をどういうふうに改革していくか、っていうことであります。例えば、ですね、ホテル\*\*\*、ノマドっていう冊子があるんです。それはサービスの基本、要は、自分たちはどうあるべきか、そういうものの、冊子があつて、そこを忠実にやるとかですね・・・、あります。サービスの仕方だとか、そういうものもあります。今、現在考えてる、まつぎき荘をこういうふうに変えたいんだ、というものがありましたらお答え願いたいんですけども・・・。

○町長（長嶋精一君） まずはですね、料理とそれと接遇っていうか、応対、応対については、応接応対接遇については、この休みの期間ですね、職員を集めて、まつぎき荘の先輩である、役場の職員の先輩でもある、同時に役場のまつぎき荘の先輩である方にお越し願って、いろんな面でレクチャーをいたしました。やっぱり親切な応対っていうものが大事でありますので、なれ合いにならないような形のね、応対を考えております。そしてそれについての、読

書感想文じゃないけれども、こういうことが参考になった、ああいうことが参考になった、そして私どもは、こうやっていこうというのを徴求しまして、それは事務局の方においてあります。そして、なによりも、まつぎ荘の料理がよかったというふうに思われるような、料理を開発してまいりたいと思います。先ほども、これも言いましたけれども、ちょうど勉強会じゃないけれども、料理研究会っていうのを17日にやってもらいたいと思います。限られた、経費、食材費の中でやっていく訳ですけども、それは、努力である。努力であると思いますから、松崎という風土に合った、ものを作っていきたいなあと。できたら、四季折々の料理を組み立てていきたいなと思っています。料理と、おもてなしのその、応対、応接、これを中心にやっていきます。当然、営業はもう、6月に、静岡方面、それから山梨の方面へと営業かけます。もちろんネットで、静岡県が中心になっちゃいますけれども、ネットでも発信をしていきたいと、このように考えます。

○2番（鈴木茂孝君） 町営観光施設の入館状況について、っていうのがあるんですけども、まつぎ荘のやつですが、食材の材料費が大きく減少したため・・・、ということですけども、材料費を削って料理を良くするっていうのは、ちょっと難しい、と思うんですね。それはそうとう工夫しなきゃダメです。それをやっぱりやるってことは、なかなか難しい。やはり、材料費も上げて、そして、おいしい料理を作っていく、というふうにしないと、なかなか難しいと思うんですね。そのへんはいかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） おっしゃるとおりですね、材料費、いい物をやっぱり取り入れていい料理をっていうのも、当然あると思います。ただ、いろいろな料理は、工夫も一つございまして、いわゆる地のものを使った料理、皆さんからもこの間、御指摘いただいたとおり、例えば季節の魚の料理何かを、やはりものが安定して入らないケースも当然ございしますので、そういったものを一つの地魚とか、旬の野菜とかという、ひとくくりにして、そういったものを提供していくような形で、満足いただけるようなものを提供できればと考えております。やはり経費、安かろう、悪かろうではお客様のおもてなしに、全く逆の方向にいつてしまうものですから、そういったものは、気をつけて、やはり、満足度を上げるということを中心に考えていきたいと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） これはですね、数字出てまして、先ほど言った、材料費が大きく、昨年減りましたが、昨年の会食費、お客様が来て会食費っていうのも、会食人数っていうのも、8%も減っていると・・・。やはり、材料費を落としました。でも、来るお客様が減りました、ということにどうしてもなっちゃう。ということなので、その辺をどうしたらいいか。例え

ば私ですと農業やっていますので、市場に出せないものっていうのもありますので、そういうものを安く手にいれるとか、そういうふうな形で、農業振興会とかとやっぱりタイアップして旬のものを、安く入れる。農家もよかった。そして、宿泊施設もよかったお客様もよかったというふうに三方良しになるような形をもう少し、松崎町、オール松崎で作ってもらうような形にしなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。いかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） はい。まさにそのとおりで、いわゆる観光業というのが、地域の中のネットワークによって成り立つということが、日本の先進のホテルの支配人とか、経営者が、今申し上げてます。まさにこの地域でのまつぎき荘のあり方というのが問われる時期には来てると思いますので、そういった意味で、今言ったような、地元の方々との連携協力をこれからますますとりながらですね・・・、なおかつ、同じ同業他社においても、何とか連携をとりながら、全ての関係者が、収益を上げられるような方法ができれば1番よろしいかなと思いますので、また今後も農業振興会なんかも特に、声かけさせていただいて、そういったところで何ができるか、というようなことも含めて、検討していきたいと・・・。検討させていただきたいと思います。

○3番（小林克己君） 今まで、国民宿舎でよく、年忌とか法事とか、よく使われて、利用されていたと思うんですけども、新しい生活様式、このような関係で、年忌とか法事とか、そのような、見込まれていた売上げが多分減っていくのではないかって、自分は懸念しております。今、静岡なりとか、いろんなところの方へ営業をかけているという話を聞きました。そちらの方の営業の力をもっと、集客、誘客という形でしていかなければ、利益へとは多分つながってはいかないのではないかって自分は感じております。より強化な誘客という形で考えていただきたいと思っております。提案ですけれども、お願いいたします。

○企画観光課長（深澤準弥君） はい。今、法事の関係、会食の関係がございました。コロナの関係で密を防ぐということで、工夫をしなければならない状況でございます。実際に葬儀のほうの会場においても、今人数を制限してやっている状況です。その中で、一つのやり方としましては、観光協会なんかが中心になって、テイクアウトやっています。今までも法事です、遠くから来た方はそのままお膳を持って帰られる方も多かったものですから、そういった方法のやり方と、あと御親族の方にはゆっくりしていただくとか、そういう方法をいろいろ勘案しているようですので、そういったところでまた皆さんからもまた是非そういったコマース的なところをですね、御協力いただければと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 一昨日ですかね、伊豆新聞に伊東の宿泊施設が載りました。あれは県

の5千円キャッシュバックというキャンペーンを、1,500人用意しているということで、先着1,500名ということだったんですけれども、なんとに2～3日で全部埋まってしまって、また新たに2千人追加で応募するよってことなんですけれども、7月から始めるのであれば、そこに間に合うような形で、それに乗っけていくってということも考えられると思うんですけども、その辺はどうでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） はい。まさにそのとおりで、ですね、県内のまず移動ということで、県がわざわざ5千円の予算を・・・、一人ですね5千円のキャッシュバックということで付けていますので、そういったものを含めた中での営業をかけられないかということ、今、申し上げているところです。実際に、7月からくる、お客様に、ホームページもちょっといろいろ御指摘もあってですね、小さい細かいところが大分まだ意識が行っていないところがあるものですから、先ほどもダイレクトメールの話もございましたし、もう少しこう丁寧に、お客様と向き合うような方向に行かせていただきたいと思いますと思っております。

○議長（藤井 要君） 他にありませんか。

ないようであります。質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（藤井 要君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○5番（深澤 守君） 私は、この補正予算に対して賛成いたします。賛成しますが、注文つけてよろしいでしょうか。松崎町はですね、海産物も良い物あります、農産物もすばらしいものあります、温泉もあります。いい人材もたくさんいて、松崎に来てくれるお客さんもすごく喜んで帰ってくれます。やはり、そのところをですね、松崎の特徴を活かしていただきたい。まして、今、隣町のはんばのところでも、やっぱり新鮮な魚を揚げている状況です。ましてや、その、ワサビも松崎はすごく有名なものがあって、どこ行っても恥ずかしくないものがあります。もう少し、板前の人にもですね、外に出ていただきたい。そして、松崎のもの、仁科のものでもいいですから、しっかりと、良い素材を集めて

いただいて、しっかりとした料理を作っていただきたい。鯉節なんかすごくよくて、外国人すごく珍重がるんですね。そういうものもたくさんあるんで、やはり・・・、そして、その、旅館民宿等に、今、補助金もたくさん出ておりますので、これはチャンスじゃないかと思います。ですから、このチャンス、今すごくピンチですけど、将来的にチャンスになる可能性がたくさんあるんで、この機会を逃さないでしっかりやっていただきたいと思います。

○議長（藤井 要君） これをもって討論を終了します。

これより、議案第44号 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を挙手により採決します。

本案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（藤井 要君） 挙手全員であります。

よって本案は原案のとおり可決されました。

---